近代の国づくり（1867～1900）　その５

≪自由民権運動と、石坂昌孝の奮闘≫

１８７３年（明治６）、「地租改正条例」が制定され、「河港道路修築規則」（注１）が発布されたあと、政府の中で、内政重視派と外交重視派が対立し、内政派が勝利。負けた西郷隆盛、板垣退助らは、下野します。

地租改正は、政府が、幕藩領主が集めていた年貢を、地元行政に必要な経費を差引いて、土地所有者から金納させることにしたものです。また、地方行政は、インフラを修築するにも地元負担が伴い、災害に対して政府から特別の措置もありません。住民にとっては、旧慣（江戸時代のシステム）より重い負担となりました。

鹿児島や多摩地域は、シラスや関東ローム層という火山灰堆積物の地であり、土地は痩せ、災害が多発します。両地域は、政府に対し不満が募り（注２）、鹿児島は西郷隆盛を担いで直接戦い（西南戦争）、多摩地域は、武力行使ではなく自由民権運動が燃え上がります。

その背景には、鹿児島が密貿易を失くし困窮化したのに対し、多摩地域は、横浜の生糸輸出により養蚕が盛んになって副収入が多く、西洋の知識に接する人々が多かったことがあると考えます。

多摩地域の中心的役割を果たしたのが、多摩の石坂昌孝（注３）です。神奈川県会が設置されると、議員に選出され、最初の県会議長（注４）となります。そして県下の活動家をまとめ、板垣退助が結成した自由党へ入党します。

昌孝の縁の地は、東京都町田市にあり、自由民権の碑がある民権の森として、鶴見川流域の保水機能を保全した“源流緑地エリア”を構成しています。（注５）なお、この地域が、神奈川県から東京都に変わる話は、また後ほど。

注１：土木行政の組織は、治河使に始まり、民部省土木寮、大蔵省土木寮と、省を移動しますが、１８７３年（M６）、大久保利通が創設した内務省土木領に落ち着きます。土木行政は、まず、１８６８年（明治２）に、各府県に「堤防橋梁道路の修繕怠るべからず」の通達を出し、工事の際は政府に許可を取らせ、その施行は府県に任せます。

そして地租改正を期に土木寮が大蔵省在籍時に「河港道路修築規則」を発布します。これは、過去５ヵ年に要した「府県堤防用悪水樋堰道路橋梁入費」を府県ごとに算出し、その平均値を府県に官費として配分する仕組みでした。

なお道路については、等級ではなく、国道、県道、里道に分けることに改正され、その国道路線が決まったのは１８８５年（明治１８）のこと。

注２：江戸時代中期以降、洪水による耕作地流出や水路の埋没に対し、農民の自力復旧が困難な場合、免税措置や私領奉行制という領主や幕府が資金援助する仕組みがありました。新政府は、災害に対する地元支援が手薄でした。災害対策は、内政の最重要課題となります。そして１８９６年（明治２９）河川法が制定され、また１８９９年（Ｍ３２）に「災害準備基金特別会計法」が制定され、災害対策の国支弁制度が確立するのです。

注３：石坂昌孝（生没年：1841－1907 年）は、原町田（現東京都町田市）出身の富農。第１回衆議院議員に当選。奇しくも、田中正造（足尾鉱毒事件を摘発し天皇に直訴した人物）と同年に生まれ、帝国議会の第１回衆議院議員も同期当選でした。娘婿が、北村透谷（生没年：1868－1894）。

注４：地方制度は、試行錯誤を重ねながら、整っていきます。１８７８年（明治１１）に、府県会が設置され、郡区町村編成法、地方税規則も定められました。ここで、地方行政の枠組みができたのですが、まだ不安定な制度であり、大日本帝国憲法制定（明治２２）前後に制定された市制・町村制（明治２１）、府県制・郡制（明治２３）によって安定します。

注５：鶴見川流域は、総合治水対策を生み出した流域であり、現在は、流域水マスタープランに基づき、水管理が行なわれています。このプランは、平成２７年度改正され、当該地域は、“源流緑地エリア”になっています。（総合治水の“三地域区分”、新総合治水の“治水から見た地域地区”は表記されていませんが、背景として組み込まれていると考えます。）

参考：1873 年(M 6) 7 月 23 日、地租改正条例、翌年から着手
8 月 2 日、河港道路修築規則　布告
10 月 25 日、西郷隆盛、板垣退助ら辞職
1883 年(M10)　西郷隆盛は、西南戦争で自決
1878 年(M11)　府県会規則、郡区町村編成法、地方税法規則　布告
1881 年(M14)　国会開設の詔　板垣退助が自由党結成
1888 年(M21)　市制・町村制　布告
1889 年(M22)　大日本帝国憲法　制定
1890 年(M23)　府県制・郡制　布告
1893 年(M26)　三多摩東京府編入
1894 年(M27)　日清戦争
1896 年(M29)　民法、河川法　制定
1899 年(M32)　災害準備基金特別会計法　制定

写真は、①民権の森の場所と自由民権の碑（yahoo 地図に、タチカワオンラインＨＰ掲載写真を重ね、細見加筆）、②自由民権運動の演説会の絵（町田自由民権資料館蔵、町田市ＨＰより）、③石坂昌孝（町田市ＨＰより）

①

②

③